

第77号

令和7年10月15日発行
森山地区社会福祉協議会
諫早市森山町本村1300
TEL. 0957-36-0889

地区社協だより もりやま



慶師野そばの花

ありがとう 夫婦で支え合った50年 いつまでも元気で ～長い道のりをふりかえり 感謝と喜びの金婚夫婦表彰～

森山地区社会福祉協議会と長崎新聞社は、各自治会から申請された金婚式を迎えられた16組のご夫婦を表彰しました。本村自治会、田尻自治会は、各公民館で自治会役員出席のなかで表彰式を行いました。表彰式では、ふたりで歩いた50年の暮らしを讃えて表彰状と記念品を贈呈。他自治会でも、自治会長、地区役員が金婚夫婦のお宅を訪問してお祝いしました。



【令和7年度金婚表彰のご夫婦】(敬称略 五十音順)

地区	ご夫婦	地区	ご夫婦	地区	ご夫婦
本村	岩永健一 タエコ	田尻	野崎敏憲 眞弓	上井牟田	古賀末好 照子
本村	江島敏昭 みどり	〃	平野正勝 美代子	〃	田代吉見 栄子
本村	吉田泰徳 みね子	〃	増山太大 アイ子	下井牟田	釜崎勝次 文子
田尻	兼松兄明 政代	〃	山口公德 三重子	〃	土井光行 あきの
〃	釜 福雄 幸子	唐比	上野秀雄 いく子		
〃	神尾福男 美代子	〃	嶋田勝廣 フジエ		

《夫から妻へ 妻から夫へ》



Aさんご夫婦

夫：辛抱したのか、耐えたのか、なんとなく50年。ただ、ただ感謝しています。
妻：森山に来て50年。平凡な生活ができることが幸せ。夫は年をとったら優しくなった。

Bさんご夫婦

夫：妻とは赤い糸ではなく、赤いロープで結ばれている。二人であとしばらく農業をしたい。
妻：50年も続くとは・・・。いろいろあったけど、これからもよろしく。

Cさんご夫婦

夫：(感極まって)母さんに苦勞かけたなあ・・・。お互いによく頑張った。ありがとう。
妻：これからも仲良く過ごしていきたい。ただ、それだけ・・・。

Dさんご夫婦

夫：妻の自慢は、優しく、奥ゆかしくて。(笑)
妻：夫は、2年前に大病をした。健康で今の暮らしがいつまでも続いて欲しい。結婚記念日に花束を数年貰ったことがあった。今では全くなし。

Eさんご夫婦

夫：50年もたった。いつも世話になってばかり・・・ありがとうございます。
妻：夫は優しいだけ。それ以外は何もない。でも今日があるのは、夫、家族、両親のおかげ。

Fさんご夫婦

夫：私たちは同級生同士。楽しい妻だ。感謝しているよ。
妻：「おかげ、おかげ」と思いながら暮らしてきた。嫁いだ娘を訪ねる車中が二人だけの楽しいひととき。

Gさんご夫婦

夫：二人とも森山出身ではないが、県外で知り合って19歳で結婚。本当にありがとう。
妻：子育てに懸命だった。夫の運転でどこへでも連れて行ってくれる。今、とても幸せです。

自助・共助・公助を今一度考えよう ～自分の命は自分で守る、地域での助け合いを。防減災研修会を開催～

森山地区社会福祉協議会は7月16日、防減災研修会を森山公民館で開催しました。この研修会は、豪雨・台風シーズンの前に防災に対する意識を高めて「自助・共助・公助」の防災3原則を考えることを目的に開催したものです。当日の出席者は77人で災害に対する意識を新たにしました。

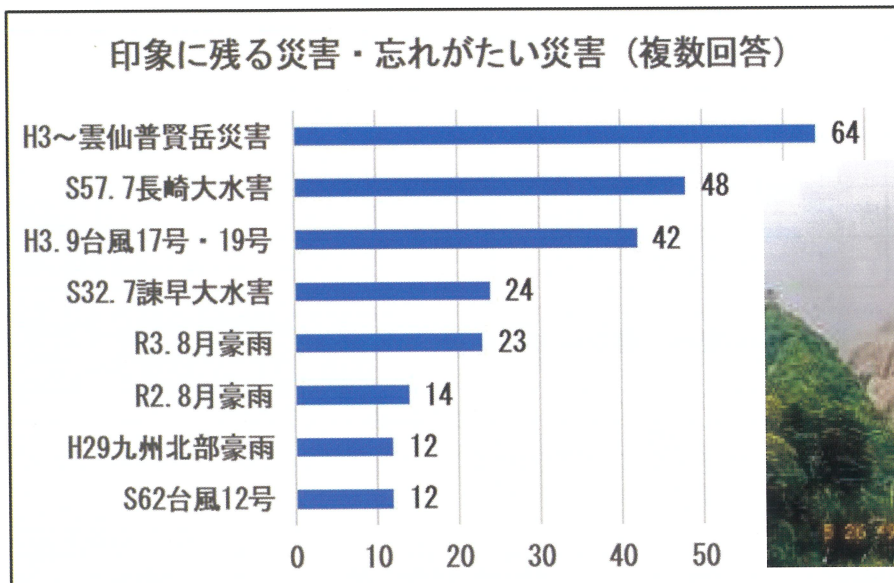
講師として長崎県危機管理部 伊賀輝希参事を招き、全国各地で発生している災害事例や防災情報、長崎県の取組みについて講演していただきました。また、鎮西学院大学の佐藤快信名誉教授は、森山地区が行っている「防減災まちあるき」の住民参加型の活動が災害時には役立つことを強調されました。

講演テーマ：「地域防災力の向上」

講師：長崎県危機管理部 参事 伊賀輝希氏

防減災研修会出席者 75 人に聞きました～7月16日研修会アンケートから～

Q1. 長崎県の災害史（1945～）で印象に残っている災害・忘れがたい災害は？



写真提供：雲仙岳災害記念館

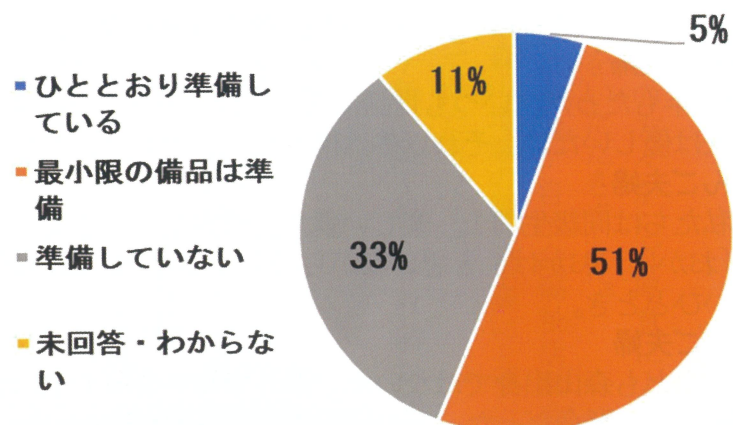
○昭和32年諫早大水害は、68年経過して体験者は高齢化のため少なくなっている。

Q2. 災害に備えて防災グッズは備えていますか？

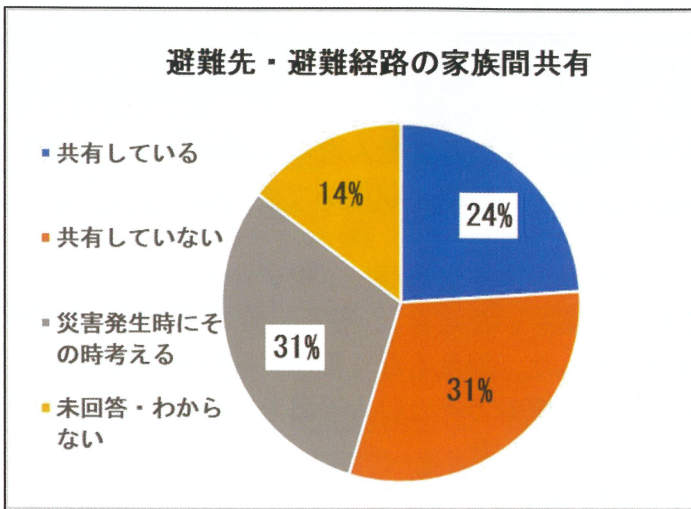
○防災グッズを準備しているのは56%、3人に1人は準備していない。



防災グッズの準備



Q3. 災害発生時に備えて避難先・避難経路等を家族で共有していますか？



○避難先・避難経路などを家族で共有しているのは24%に過ぎない。「共有していない」「災害発生時に考える」は、併せて44%にのぼる。



《アンケートから》

- ◆平成3年19号台風。諫早東高校のバックネットが約100メートル、隣家の庭に飛んできた。(60代男性)
- ◆雲仙普賢岳の噴火で、被災者の治療に関わりました。気持ちが入っていました。(50代女性)
- ◆東日本大震災で、石巻市に2週間、市役所のサポートに行ってきました。(50代男性)
- ◆昭和32年諫早大水害、海の近くの親類が船で運ばれて避難してきたのを覚えています。(70代女性)
- ◆長崎大水害では、矢上地区商店街の復旧ボランティアに長期間参加した。(70代男性)

ふれあいきいきサロン トピックス ～森山地区ふれあいきいきサロン情報～

【峰サロン（下井牟田 峰地区）が発足】

令和7年7月、下井牟田の峰地区に発足しました。峰地区では、令和3年度までサロン活動をしていましたが、休止して自主的な活動を続けていました。このほど新たにサロンとして再スタートすることとなったものです。毎月第4土曜日に峰公民館で開催。足を運んでみませんか。
(代表 末田美須枝さん 利用者・ボランティア 11人)

【ひばり（本村 白塔地区）が発足】

令和7年10月、本村の白塔地区に発足。白塔地区には、数年前まで「白塔いきいきサロン」がありましたが高齢化などにより廃止されていました。「白塔地区でもサロンを」との声が高まり、このほど地区内の65歳以上の対象者全員に声をかけて発足に至りました。



サロン説明会に集う皆さん

サロン名「ひばり」は春にさえずる賑やかな雲雀（ヒバリ）のように「ピーチク、パーチクと語り合いましょう」との意味を込めているとのこと。にぎやかなサロンになそうです。



(代表 田中悦子さん 利用者・ボランティア 27人)

【な釜会・さくら会が合同で演奏会を楽しむ】

田尻地区の「な釜会」（代表 山口三重子さん）と「さくら会」（代表 野崎和枝さん）は、9月17日、森山老人福祉センターで合同サロンを開催。水野正彦さん（本村）のギター演奏に耳を傾け合唱したり、第2部は橋川澄夫さんの軽妙なリードでカラオケを楽しみました。

森山産新米コシヒカリを届けました

森山地区社会福祉協議会は8月24日、森山産新米コシヒカリをひとり暮らし高齢者の皆さんに届けました。今年は、社会的に米不足問題が大きく取り上げられましたが、米は日本の主食



であると改めて認識させられました。そんななか森山のコシヒカリは、収穫前の長雨にも負けず、無事に収穫ができて届けることができました。

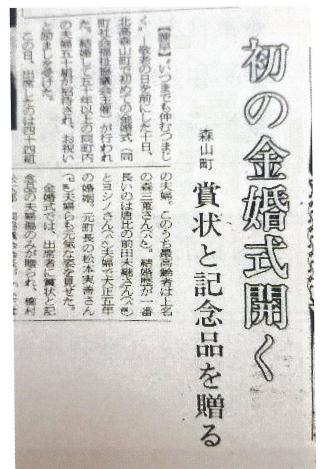
訪問先では、配達した民生・児童委員に「暑い中ありがとうございます」「残暑が厳しいのでご自愛ください」とねぎらいの言葉をいただき、「混乱もなく無事に配付を終えました。民生・児童委員は「地域の方々とひとり暮らし高齢者を見守っていきたい」と語ってくれました。

☞「いつもお世話になります。ありがとう」

残しておきたい 森山のあの日あの頃 ～ 森山町で初の金婚式を開催～

43年前の1982年（昭和57年）9月、森山町で初めて金婚式が開催されました。報道によると、結婚して50年以上の夫婦50組が招待されて、橋村松太郎森山町社協会長から賞状と記念品が贈られました。

ちなみに今年（令和7年）の金婚夫婦表彰は16組。森山町の人口は、昭和57年5,998人から令和7年4,729人に21%減少した。隔世の感がする。



ご寄付ありがとうございました

左記の方々からご厚意による寄付金をいただきました。

寄付金は、自治会福祉活動助成等、森山地域の福祉事業に大切に使用させていただきます。

令和7年7月1日～9月30日受付

《香典返し》

◎本 村 中村宮子様

【亡母 シズ子様】

◎下井牟田 井手和雪様

【亡母 トミエ様】

《一般寄付》

◎匿名

《表紙画像》

慶師野地区に広がる蕎麦（そば）の花。早期米コシヒカリの収穫後の圃場には裏作として蕎麦が栽培される。二百十日頃に播種。10月、真っ白い花が咲き誇り収穫の季節に向かう。